

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083

京都市中京区三条通柳馬場東入
中之町 10 番地

TEL:075-211-7277

FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。



3歳までの 親子支援と 保育・療育

「こども家庭センター」の
あり方をさぐる

近藤直子・ A5判212頁 定価1980円(税込)
全国発達支援通園事業連絡協議会／編著

こども家庭庁、児童福祉法改正で注目される、0歳児期からの子育て支援、就労家庭増加での児童発達支援の役割。あかちゃん教室、併行通園、自治体の仕組みなど、保育者、発達相談員、保健師らが連携した各地の取り組み。



保育園に 心理士が やってきた

多職種連携が
保育の質をあげる

塩谷素・吉田かける・藤原朝洋／編著
A5判202頁 定価2420円(税込)

常勤心理士が保育士と連携し

保育の質の向上をめざす画期的な取り組み！

保育士が心理士の考え方を学んで現場対応能力が向上。心理士は保育園に新たな機能を加えるのではなく、今ある機能を強化する！



クリエイツかもがわ
CREATES KAMOGAWA

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <https://www.create-k.co.jp>
TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料330円(5000円以上無料)

A black and white photograph of the Seoul History Museum building. The building has a modern facade with large windows and a sign in Korean that reads "서울역사박물관" (Seoul History Museum). The entrance area is visible, with people gathered outside. The text "들어가는 곳" (Entrance AG) is visible above the glass doors.

서울역사박물관

支配の歴史を反省し、心かよわせ合う未来へ 第28回合宿研究会inソウル

1月6日～8日の3日間、韓国・ソウルにて合宿研究会を開催。総勢34名で、低出産・高齢化・貧困という日韓共通の課題や、そこへのとりくみについて学びました。仁川空港到着後、まずはソウル歴史博物館(写真)で、朝鮮時代から現代にいたるまでのソウルの歴史と文化を学びました。日本が植民地政策のなかで朝鮮王朝や大韓帝国を象徴していた建築物のほとんどを破壊し、支配した歴史の解説もありました。韓国の人たちから日本が奪ったものの大きさをあらためて学び、感じる合宿研究会のスタートとなりました。



チョンゲジョン

写真は、「ソウルランタンフェスティバル」がおこなわれていた清溪川。清溪川沿いには、1970年代初頭まで「パンジャチップ」と呼ばれたバラックがあり、被服工場の労働者、日雇い労働者、行商・露天商など都市貧民の居住地域でしたが、都市開発の名目でソウル市の周縁に追い出されてしまいました。川を覆って、その上に清溪高架道路が建設され、周辺には高層ビルが立ち並びました。産業化の象徴といわれた高架は、老朽化とともに公害問題により撤去され、2005年に人工河川として復元されました。今はソウル市民の憩いの場として四季折々の景色を楽しむことができます。



2日目のシンポジウムでは、会場を貸して下さったソウル市立永登浦障害者福祉館のチエ館長が、「まずはじめに、元日の震災は韓国でも大きく報道されています。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます」と、能登半島地震に触れてあいさつをしてくださいました。隣国として関心と気持ちを寄せてくださっていることに、心があたたかくなりました。4つめの報告をして下さった南陽州障害者福祉館のコン館長も、同志社大学に留学した恩師のもとで社会福祉を学んだことや、社会福祉における日本と韓国のつながりの深さを語っていただきました。



次号で紹介する、3日目に訪問した永楽保隣院（児童養護施設）は、さかのぼると明治時代に設立された鎌倉小児保育園（現社会福祉法人聖音楽会）にルーツがあります。お話ししてくださいましたキム院長は、なんと私たちが訪問した翌週に日本の児童養護施設に視察に行かれるとのことでした。同じ課題や悩みを抱える日本と韓国が、現場レベルで交流を深め学び合うことの意義を、あらためて感じた3日間でした。その一端を、今号と次号で紹介したいと思います。（写真は、2日目シンポジストのみなさんと参加者）

（写真・文 編集室）

●特集● 第28回宿研究会 in ソウル
低出産・高齢化・貧困——日韓共通の課題を考える〈前編〉

韓国の低出産とオリニチプの現状	チェ・ジュヨン	12
韓国青年労働の現実と課題	キム・ジヒョン	16
高齢者の暮らし・貧困と福祉サービス	パク・ヨンスク	20
社会福祉館・障害者福祉館の理解と処遇改善のためのとりくみ	コン・サンギル	24
参加者の感想～ソウル歴史博物館とシンポジウム～		28

●トピックス●

韓国における福祉政策の展開	金 早雪	32
平和とは、恐怖や欠乏から解放されること	中島 素美	38
住まいの貧困を考える		
～Ⅲ 困難を抱えた若者への支援と住まい①～	藤原 望	42

●連載●

世界と交流する平和の船に乗ってみた！	根津眞澄+オット	48
最終回 過去の戦争、いまの戦争、未来の平和のために		
WORK WORK——わくワク——		
愛媛といえば「みきゃん」「こみきゃん」	どんまいクラブ	52
婦人保護運動のこれまでとこれから（最終回）	雪田 樹理	54
いくの学園の実践を振り返り、これからの女性支援のあり方を考える		
ケア労働処遇改善キャンペーン！⑳	正森 克也	58
「職員紹介会社」に関する実態調査アンケートから		
JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合（36）		
24春闘 大幅賃上げ・増員 みんないっしょに声をあげよう！		60
私の履歴書 社会福祉経営全国会議（36）		
素人なりに歩んだ40年	伊藤 一弥	62
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（56）	水野阿修羅	64
相談室の窓から あらたな自分探しの機会	青木 道忠	66
育つ風景 保育の中での分かれ道	清水 玲子	68
映画案内 運び屋	吉村 英夫	70
現代の貧困を訪ねて		
越冬する高齢女性たち	生田 武志	72
いらすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート		
似顔絵福笑い・正解編！	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子



関東大震災下の「ろう者」 惨殺の史実を追って

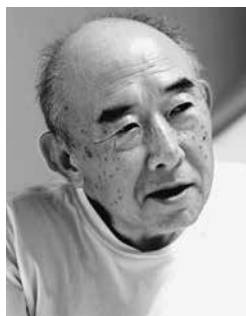
～日本語の発音発話が生死を分けた～

明石・伊丹「ろう史と手話」研究会 藤井 裕行

震度7。元日の夕方、石川県能登半島を巨大地震が襲った。大津波警報が解除されると、テレビの多くは正月番組に戻った。ところが被害は甚大だった。地震発生から四週間が経過しても、犠牲者の人数すら正確に把握できなかった。能登半島は山だらけの長い半島で陸路はいたるところで寸断され、救援の手がとどかなかった。通信施設も被害を受け、被害の全容が把握できず、この地域の高齢化率の高さ、過疎化、そして耐震化が遅れた建物の倒壊が被害をさらに拡大させた。デマや流言がSNSを介して拡散したが、災害弱者が惨殺されるという事例はなかった。ところが、今から一〇〇年前に起きた関東大震災では、日本語の発音発話が困難な「ろう者」たちが憲兵や自警団の手で、なぶり殺された。

ろう者の「聾」とは、古代中国の神獣「龍」の耳がきこえない故事から、龍の文字の下に耳を添えて「ロウ」と発音。「啞」は話せないこと。耳がきこえないと発音発話ができないため「聾」と表記。関東大震災の朝鮮半島出身者虐殺の研究は数多くあるが、ろう者たちが、朝鮮半島出身者に誤認されて惨殺された史実は、歴史の闇に葬られたまままだ。今から三四年前、戦前の大阪市立聾啞学校の元教師から、関東大震災下の「ろう者」惨殺の証言に接し衝撃を受けた。だが、裏付ける文字記録がなく、以降の歲月は史料発見の渉猟に費やした。これまでの成果をブックレット『歴史の闇に葬られた手話と口話』（二〇二三年、神戸学生青年センター）にまとめた。

震災当時、聾啞学校は義務教育でなく、就学率は一〇％未満。東京の未就学「ろう者」



ふじい ひろゆき

元伊丹市役所職員。

手話を母語に生きる人たちのコミュニケーション支援を続けて半世紀。

は推定で一万二〇〇〇人。当時の新聞記事には、官立東京聾啞学校の生徒の半数以上が生死不明とある。ほかに私立日本聾話学校の女子生徒二名が自警団に襲われた記録がある。ろう学校の義務教育化は戦後の一九四八年からで、教室に集まった生徒の年齢は一六〜一九歳の年長者ばかり。さらに、各自が自分の家族でしか通じない「身ぶり」「手まね」を使うため、教師はおどろき、教室は混乱した。

手話はサインコード（身振り記号）と文法と優れた空間表現をもつが、いかんせん文字をもたない言語だ。関東大震災下の「ろう者」惨殺の記録がないのは、手話が文字でなかったこと。また、惨殺を逃れた「ろう者」が語る手話を読み取り、それを文字化しようとした手話通事（通訳）がいなかったこと。さらに、日本語の発音と発話を優先した「口話法教育」が主流だったため、文字教育には力を注がず、ろう者が活字に残せなかったこと。そして、口話法に傑出した「ろう者」が多数惨殺されたため、当時の関係者が不都合な史実として文字に残さなかったことなど、記録がない理由は複雑だ。

その手話だが、今、日本には二つの異なる手話がある。耳がきこえない人たちが使う手話と、手話サークルで広がる「耳がきこえる人たちの手話」。ろう者ばかりが会話する場面では、耳がきこえない人たちの手話を使うが、耳がきこえる人が来ると、耳がきこえる人たちの手話に無意識に切り替える。手話サークルで生まれた手話が、「ろう者の手話」を脅かす現場を何度も見てきた。耳のきこえない人たちの手話は、「消滅危機言語」のきびしい状況下にある。

日本と韓国 若び合つ見えしつるいふ

日韓は、日本が植民地支配をした歴史があり、いまだ解決できていない問題がありながらも、さまざまな法律や制度、文化をお互いに交流・参考にしながら、歩んできました。そうしたこともあり、急速な低出産（少子化）、高齢化、貧困など、抱える社会課題も、似ていることが多々あります。

二〇二三年の日本の合計特殊出生率（出生率）は、一・二六と過去最低でした。出生数は七年連続で減少しています。いっぽう、韓国は、二〇〇三年に一・一九まで低下し、二〇二三年には〇・七八と過去最低を記録しています。両国とも、今後も出生率の低下はつづく予想されています。

日本の六五歳以上高齢者の数は、一九九四年に一四％、二〇〇七年に二二％を超え、二〇二三年は二九・一％と過去最高を更新しています。いっぽうの韓国は、二〇〇〇年に七％を超え、二〇二〇年に一四％を超えました。二〇二二年の高齢化率は一七・五％と日本より低いですが、二〇二五年ごろには超高齢社会である二二％に達すると見られています。一四％から二二％まで、日本は一三年かかりましたが、韓国はそれをたった五年で迎えてしまう予想です。

いっぽうで、韓国の最低賃金（全国単一）は、二〇〇三年の二二七五ウォンから二〇二三年には九六二〇ウォン（約一〇八〇円）まで上がりました。二〇年間で約四倍です。これは、国民が声を上げ、行動した結果です。韓国は、日本と比べてとくに若者の投票率が高く、一八〜三九歳の投票率をみると、二〇二〇年の国会議員選挙では五八・六％（全体では六六・二％）、二〇二二年の大統領選挙では七〇・九％（全

体では七七・一%)を記録しています。いっぽうの日本は、二〇二二年の衆議院議員通常選挙の投票率が、一〇代が三五・四%、二〇代が三四・〇%、三〇代が四四・八%でした(全体では五五・九%)。

大統領制をとる韓国は、政策の構想や立案段階で、大統領の意向が強く働きます。しかも再選不可の五年単位制のため、短期間で成果を出そうと思いついた政策立案が打ち出され、トップダウンでスピーディーに実行に移されるのが特徴です。とにかく実行に移して、「走りながら考える」スタイルで、この点は、なかなか変わらない、動かない日本との大きなちがいだと思います。

『韓国社会の現在 超少子化、貧困、孤立化、デジタル化』(春木育美著、中公新書、二〇二〇年)によると、韓国では二〇〇五年に「低出産・高齢社会基本法」が制定されましたが、その目的を、「国家の競争力を高め、国民の生活の質の向上と国家の持続的な発展に貢献すること(第一章総則第一条)」としています。しかし、「ここからすでにボタンの掛け違いがあった」と筆者は指摘します。「労働人口減少への危機感から制度設計された少子化対策であっただけに、子どもを産み育てやすい社会の実現ではなく、女性の労働力化に主眼が置かれたから」です。だからこそ、日本に先駆けて保育料の無償化や男性の育休活性化に力が入れられてきたにもかかわらず、若い女性たちは「子育てが楽しそうに見えない。自己犠牲のうえに成り立っている」と、低出産の進行がとまりません。子どもの人権を守ることに主眼が置かれず、国家存続のための少子化対策という点で、日本の少子化対策と大きく共通します。そもその「少子化対策」の視点をあらためない限り、問題は改善されないことを、韓国の状況は示唆していると思います。

今回の合宿研究会では、そうした政治的な背景や根底の問題まで掘り下げることはできませんでしたが、同じ福祉や運動の現場で日々奮闘されているみなさんと、めざす社会のあり方や思い、願いを共感・共有しました。

(編集主任 申)